

平成 22 年度第 1 回公立大学法人会津大学経営審議会議事概要

- 1 日時 平成 22 年 6 月 25 日（金）13：30～15：10
- 2 場所 会津大学管理棟 3 階 大会議室
- 3 出席者
委員 10 名：（学内委員）角山理事長、セドゥーキン副理事長、岡理事、牧田理事、菅野理事
（学外委員）杉原委員、瀬谷委員、松川委員、宮澤委員、内藤委員
監事 2 名：栗城監事、福西監事
岩瀬理事、事務局職員
- 4 議事録署名人 牧田委員、菅野委員
- 5 議事

<議題>

A 平成 21 年度業務実績報告書について

菅野理事が平成 21 年度業務実績報告書について説明を行った。以下の意見交換等を行った後、原案どおり了承された。

(意見等)

- 学部の就職率 92.5%は素晴らしいと思う。これを平成 23 年度に 100%にするとの目標だが、どのような対策を講じられるのか。
 - ・今年度から就職支援室を立ち上げ、相談員を配置した。学生の中には、人と話をしたり、交渉したりすることが苦手な学生がおり、そういう学生は面接をしてもうまくいかないのので、重点的に指導していきたい。
 - ・今の学生は、インターネットで自由に企業とやりとりしながら就職活動を行っている。そうすると早い段階からキャリア教育を徹底する必要がある。また、会津大学の先生は、学生が就職できて当たり前という意識があって、学生の就職活動をあまり支援していない感じがする。今後求人が厳しくなる可能性もあるので、地元とのパイプはこれまで以上に必要だと思う。
 - ・これまでは就職率がよかったので、学生の就職活動に関して教員が若干安易に考えていたということもあるが、ここ数年変わってきて、教員も熱心にやっていたいかなければならないと思うようになってきた。ただ、県内の就職に関しては、決定的に求人数が少ない。
 - ・就職すると思っていないので求人を出していない。企業と大学との間でマッチングしていない。
 - ・語学が出来るとコンピュータ関連だけでなく一般企業でも有利だと思う。採用する側も先入観に捕らわれないで考える必要がある。
- 英語がそんなに得意ではないという学生がいると説明があったが、そこは突出しているという会津大学のイメージと違ったが。
 - ・1 年生全員に TOEFL を受けさせることとした。
- 外部資金の獲得額が下がっているとの説明があったが、この後の議題である大学機関別認証評価の取りまとめなどが教員の負担となり、科研費の申請にブレーキをかけているということはないのか。
 - ・科研費の申請自体はそれほど複雑なものではなく、書き方が馴れていないと受からないことになる。
 - ・教育・国際交流に関する外部資金に関して、一人当たりで換算すると、本学はこの規模の大学としては獲得している方だ。

○短期大学部の地域貢献に関する説明の中で、経済産業省らの受託事業で、大学が管理法人を担当したとあったが、このようなことをもっと拡大しようという考えはあるか。

- ・この受託事業は、大学が管理法人となるのが一番いいという形態であったためそうなったものである。

○県立高校と会津大学の今後の取組みについて教えていただきたい。

- ・今年度、中高一貫校（会津学鳳高校）がスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けたが、会津大が全面的にサポートしている。会津の中で、会津高校と中高一貫校が競争してどちらかが一位とかそういうことになってもしょうがないので、例えば中高一貫校はもう少し国際路線を打ち出すなどそれぞれが個性を出して立派になっていただくよう地元と協議していきたい。

B 平成 21 年度決算について

菅野理事が平成 21 年度決算について説明を行った。特に質問等もなく、原案どおり了承された。

C 大学機関別認証評価自己評価書について

菅野理事及び牧田理事が大学機関別認証評価自己評価書について説明を行った。以下の意見交換等を行った後、原案どおり了承された。

(意見等)

○評価は相対評価か、絶対評価か。

- ・絶対評価である。
- ・最低限の基準を満たしていればいいのか。これは優れているというポジティブな評価はないのか。
- ・この評価は、最低限を満たしていればいいのかということである。

6 その他

角山理事長が「はやぶさの任務における会津大学の貢献」及び「会津大学 次世代スーパーコンピュータ特別フォーラム」について説明を行った。

平成 22 年度第 2 回公立大学法人会津大学経営審議会議事概要

- 1 日時 平成 22 年 11 月 2 日（火）15：28～15：48
- 2 場所 会津若松ワシントンホテル 2 階「双鶴」
- 3 出席者
委員 10 名：（学内委員）角山理事長、セドゥーキン副理事長、岡理事、牧田理事、菅野理事
（学外委員）杉原委員、瀬谷委員、松川委員、宮澤委員、内藤委員
監事 2 名：栗城監事、福西監事
岩瀬理事、事務局職員
- 4 議事録署名人 岡委員、菅野委員
- 5 議事

<議題>

A 平成 23 年度予算編成方針（案）について

菅野理事が平成 23 年度予算編成方針（案）について説明を行った。以下の質疑応答を行った後、原案どおり了承された。

（質疑応答）

- 運営交付金が毎年 1% ずつ削減されているが、これはいつまで続くのか。
 - ・現在の中期計画期間中はこのルール（1%削減）が続く。
- いつ見直しが行われるのか。
 - ・次期中期計画が平成 24 年度からなので、来年度中には県との協議が始まると思う。
- 本学としてきちっと説明できる材料を整えなければいけませんね。

<報告事項>

A 平成 21 年度決算における剰余金について

菅野理事が平成 21 年度決算における剰余金について説明を行った。以下の質疑応答が行われた。

（質疑応答）

- 宿泊施設に 2 億 5 千万円、備品更新に 2 億円の合計 4 億 5 千万円使うとのことだが、目的積立金の約 8 割を使い切るとのことか。
 - ・これまでの剰余金約 5 億円に平成 21 年度の剰余金約 2 億 1 千万円が追加になるので、剰余金は約 7 億円になる。この約 7 億円を活用することになる。

平成 22 年度第 3 回公立大学法人会津大学経営審議会議事概要

- 1 日時 平成 23 年 2 月 28 日 (月) 10 : 00 ~ 11 : 05
- 2 場所 会津大学管理棟 3 階 大会議室
- 3 出席者
委員 8 名 : (学内委員) セドゥーキン副理事長、岡理事、牧田理事、菅野理事
(学外委員) 杉原委員、瀬谷委員、宮澤委員、内藤委員
監事 1 名 : 福西監事
事務局職員
- 4 欠席者 角山理事長、松川委員
- 5 議事録署名人 岡委員、牧田委員
- 6 議事

<議題>

- A 平成 23 年度公立大学法人会津大学予算案について
菅野理事より説明を行い、以下の質疑等の後、原案どおり了承された。

(質疑等)

- 限られた条件の中で、いろいろ工夫をしてきちんとした予算が出来ている。四大と短大の予算の比率について、ここ 4、5 年の傾向はどうなっているのか。
 - ・全体の予算枠としては、毎年 1% ずつ約 2 千万位ずつ減らされてきているが、四大と短大の比率は基本的には変わらない。ただし、施設整備等の改修経費や退職する先生方の退職金により大幅に変動する。
 - ・第 I 期中期計画は平成 23 年度で終わるが、この期間中は一般事業について効率化係数で 1% の削減ルールがある。平成 24 年からの第 II 期についての運営交付金の取扱については、平成 23 年度中にルールづくりをするということで、現在県と協議中である。このまま毎年 2 千万ずつカットされていくと、いずれかの時点で教育研究経費の見直しということも視野に入れざるを得なくなる。
- 国立大学の場合は、カットされた財源を全部集約して別のものに回すということで還元されているが、公立大学法人の場合はどうなっているのか。
 - ・新たなルールが作れるかどうかという問題がある。国立大学法人は II 期中期計画に入っているが、1% のルールは継続されている。また、国の研究費の配分については、有名総合大学へと重点シフトしてきている。
- 国立大学法人と公立大学法人の間で、研究費の配分について差が広がっているということを聞いているがどうなのか。
 - ・国の補助金については、国立大学法人は運営交付金を国からもらっている。私立は、私学補助金をもらっている。公立大学法人は、国からは直接もらっていないが、その分を地方交付税で一応算定されている。国の研究費については、別途予算措置をして公募方式でやっているが、有名総合大学へ重点シフトしてきており、運営交付金の減をまんべんなく補填する仕組みになっていない。いずれ全ての大学が生き残れる仕組みは無くなってくるかもしれないので、いろいろ工夫していく必要がある。

7 その他

- A 公立大学法人会津大学の運営状況について
菅野理事及び岩瀬理事から四大について、牧田理事から短大について説明を行い、以下の質疑等があった。

(質疑等)

- 会津大学が今後取り組んでいくスーパーコンピュータについての10ペタフロップスとは、プロセッシングのスピードを言うのか。
- ・10ペタフロップス級のスーパーコンピュータ開発は、現在日本の国家プロジェクトとして取り組みが進められているもので、「フロップス」とは1秒間に浮動小数点数演算を何回行うことができるかを示すコンピュータの性能指数である。小型の高速プロセッサを複数集約させ、トータルで10ペタフロップスの性能を実現するものである。大学がこの開発課題に取り組む意義を考えると、ハード面の開発を行うことはもちろんのこと、スーパーコンピュータに関わる人材の教育・育成を行っていくことが求められる。
- 会津大学が今後スーパーコンピュータに取り組んでいくとなると、研究用に使っているコンピュータも相当程度レベルアップしないといけないのではないか。
- ・ここで整備しようとするとなお莫大なお金がかかる。
- ・どこかにコンピュータを持って、それをリモート操作するようになるのか。
- ・現在、国の大きな大学のスーパーコンピュータをネットワークで使用する形態をとっているため、そういった形で使用することになると思う。